訪問サポート研修

夏休み期間中に、市内小中学校 47 校で訪問サポート研修を実施しました。

研修のテーマは学校の課題に応じて、次の３つの中から選択してもらいました。

○「情報セキュリティポリシー」

～情報の管理・ウィルス対策・セキュリティ監査～

○「ＩＣＴを活用した授業作り」

～校内ＬＡＮや大型テレビの活用～

○「情報安全モラル教育」

～利用の実態、指導方法、家庭・地域との連携～

平成21年度から市内全小中学校に50インチの大型テレビが整備されたことにより、今年度は「ＩＣＴを活用した授業作り」を選択した学校が半数以上ありました。

研修では、デジタルカメラで撮影した子どもたちの表情を、大型テレビにつなげてリアルタイムで映し出したり、書画カメラ（OHC）を使って、家庭科で行う「玉結び」のやり方を手元を大きく映して表示したりしました。また、提示型ソフトを使用して、算数のかけ算や社会の県名当てのフラッシュ型教材の作成を行うなど、授業に直接取り入れることのできる内容が中心となりました。

この研修を通して、先生方の情報スキルの向上とＩＣＴ機器を利用した授業づくりについて考えてもらうことが出来ました。今後も総合学習センターでは、学校の要望に応じた先生方の実践的な情報教育のサポートを行っていきます。

さがみはら教育 151 号の紹介

さがみはら教育 151 号は、「進め！言語活動の充実」がテーマです。新学習指導要領では「思考力・判断力・表現力等の育成」を達成するために、「言語活動の充実」が重視されています。本号では、横浜国立大学教授の髙木展郎氏のインタビューと市内小中学校へのアンケート調査報告の特集を組み、言語活動における教師の意識や実践、子どもたちの実態について分析を行い、高木氏と小中学校の校長先生の提言から、今後の「言語活動の充実」の方向性に示しました。また、市内小中学校の先生方や市民の方から授業実践例や随想などをいただき、子どもたちの言語活動に日常的にどのようなかかわりをもっているか、広い視点で言語活動を考える構成となっています。

お問い合わせは、研究・研修班（756-0290）または、情報公開室行政資料コーナー(769-8331)まで。また、総合学習センターのホームページ(http://www.sagamihara-kng.ed.jp/index.htm)にも特集内容を掲載しています。

さがみはら教育１５２号の予告

さがみはら教育 152 号は、「子どもの遊びを考える」がテーマです。子どもの遊びの実態と教師の意識の相違点をさぐりながら、遊びを通しての人間関係づくりについて考察をしていきます。

放射線等に関する教育職員セミナー報告

９月７日（水）に中学校、14 日（水）に小学校職員を対象にした「文部科学省主催・放射線等に関する教育職員セミナー」が行われました。今回のセミナーでは、公益財団法人・原子力安全研究協会の医学博士等を講師として、「放射線に関する講義」と「放射線測定等の実験」、「授業に関するワークショップ」が行われました。

今回のセミナーでは、放射線の危険性・有効性の両面を捉え、原発のことだけでなく、日常の生活の中にも大きく関わっている放射線に対して、知識・理解を深めることを目的に行われました。

福島の原発事故以降、放射線の危険性について報道されていますが、何がどのように危険なのかが不透明なまま、不安だけが募っています。

今、大事なことは、放射線とは一体どんなものなのかということを理解し、それをもとに、何が危険でどう対処すればよいのかとか、どんな性質があって、どう活用できるのかなど、放射線に対して主体的に判断し、行動していくことだと言われています。

受講者の感想の中に、「これからの将来を担う子どもたちに、どんな力をつけていくのかを意識して授業を行わなければならない」という意見が多く見られました。今後、授業等で何を大事にしていくのかを問われたセミナーでした。